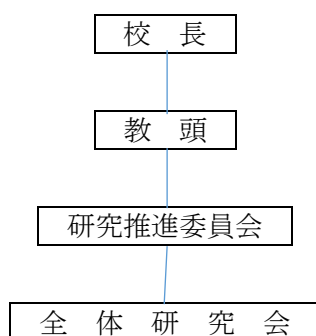


#### 4. 研究組織



#### 5. 研究テーマに迫るための3つの要素

##### (1) 『学びの木』

研究テーマに迫るために、めざす児童のイメージ像を『学びの木』として各学級に掲示し、可視化する。



##### (2) 『学びの木』の成長ための「研究の4ステップ」

###### ステップ1 基本的な生活習慣・学習習慣の定着

学びの基本は、規則正しい生活習慣と節度ある学習習慣である。この2つの習慣の定着のために、「生活目標」と「学びのやくそく」の中から「重点目標」を設け、めあてづくりとふり返しを行う。さらに、学校だけでなく地域や家庭との連携も図り、学習に対する集中力の育成につなげていく。

###### ステップ2 お互いに認め合える人間関係・集団づくり

お互いを認め合うことができる集団をいかにしてつくり上げるかが学校生活の重要な要素である。そこで、クラスや異学年集団（複式学級や縦割り班活動行事など）での活動を多く設定し、お互いが認め合える集団をつくっていくことができれば、意欲を持った学び合いにもつながっていくと考える。

###### ステップ3 学習の基礎・基本の定着

各教科の基本的な学習内容の定着は、発展的・応用的な学習をしていく上で大切である。あらゆる場面を通して、基礎言語力（話す力・聞く力・書く力）、基礎計算力、各教科に必要な基礎知識や教科用語を身につけることで、学習や活動に自信を持って取り組むことができるようになり、意欲の向上にもつながると考える。

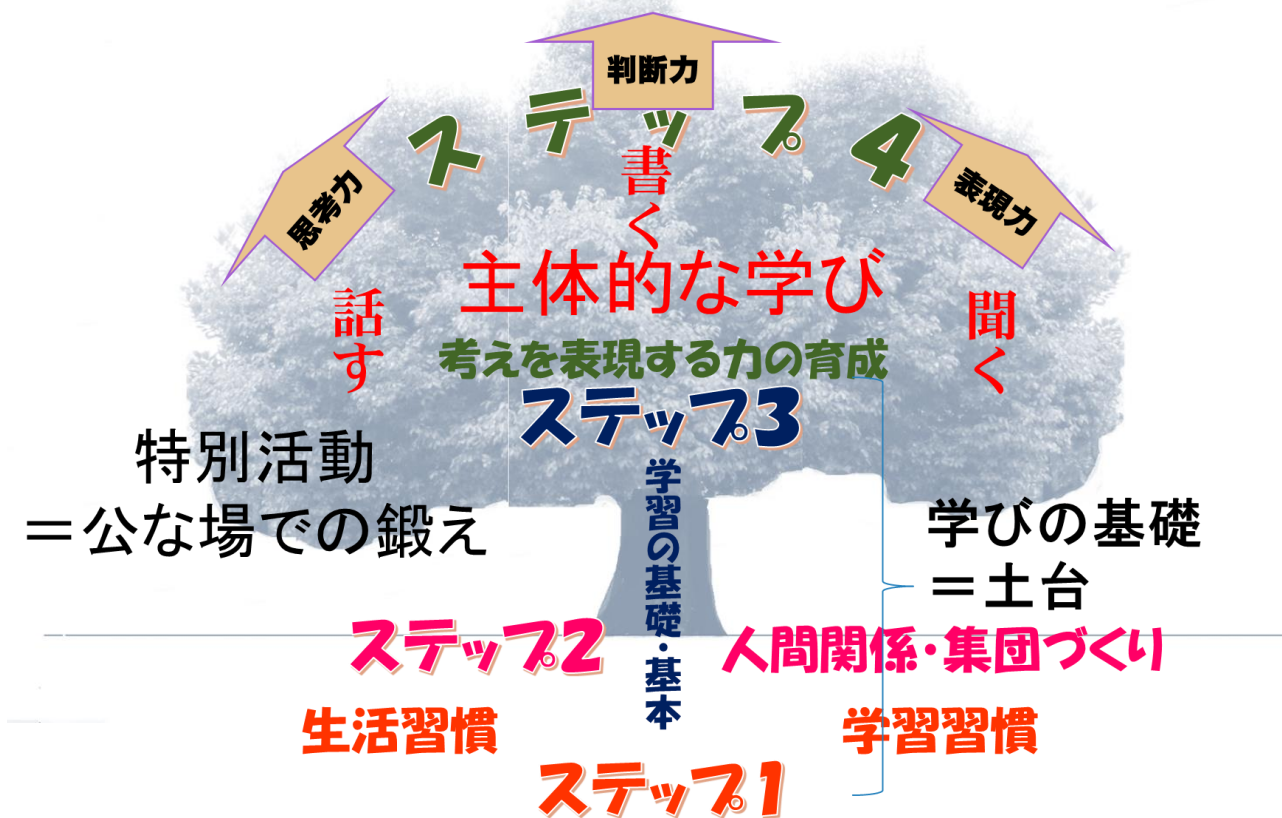
###### ステップ4 意欲的に考えを表現する力の育成

3つのステップの土台が整えば、意欲的に考えを表現する力が育つと考える。

「書く」「話す」「聞く」を通して考えを表現したり伝えたりする活動から、子どもたち一人ひとりが



「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」につながる学び合う場面が生まれ、更なる学ぶ意欲につながると考える。また、少人数では鍛えることが難しいであろう「公の場」での表現する力は、特別活動の場面で育てている。

研究仮説 学びの木



(3) 意欲的に考えを表現する力の育成のための「授業の4視点」

「授業の4視点」を通して、意欲的に考えを表現する力を育成していく。

導入段階	<div style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px; border-radius: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>① 明確な課題の設定</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ねらいにせまる考えたくなる課題を児童とともに設定する</li> <li>○ 既習との違いを明らかにする</li> <li>○ 何ができればOKなのかをはっきりさせる      見通しを持たせる</li> </ul> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px; border-radius: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p><b>学習のゴールを教師と児童で共通理解して、学習意欲を持たせる</b></p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">課題は、「比の片方が分からなかったとき、どうやって求めるのか」です。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">今日は、交流会の計画を立てられたらOKです。</p> </div> </div>
------	---

展開段階

## ② 思考する場の保証

- 自分の考えを持たせる
  - ・既習をもとに考えさせる
  - ・図・数直線・絵・文などを使って書かせる  
→『学びの木』「書く」



数直線で考えてみよう。



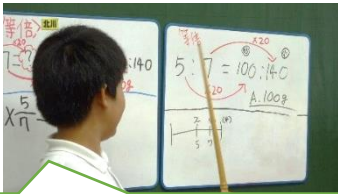
## ③ 意欲的に考えを表現する場の設定

- 考えを伝え合い、学び合うことができるようにする →『学びの木』
- ・自分の考えを相手意識を持って伝えさせる →『学びの木』
- ・教科用語を使うことを意識させる
- ・反応しながら自分の考えと比べながら聞くようにさせる →『学びの木』
- ・問い返しや深めるための発問をし、学びを深めるようにする



・〇〇したらできると思うよ。  
・ここまで分かるけど…

・話したら、友達ももっと良い考えにしてくれたよ。  
・分からないところを一緒に考えて、教えてあげたら、もっと良く分かったよ。  
・先生に「いいね」って言ってもらったから、自信が出たよ。もっと考えたい



ぼくは、「比の性質」を使いました。

②の文に書いてあります。



きつねを言います。「あ、種が落ちて  
いるよ。誰が落としたのかなあ。」

一人ひとりが相手意識を持った表現をし、意欲的に学び合うことができるようにする

終末段階

## ④ まとめ活動の充実

- 分かったことを自分の言葉でキーワードを使ってまとめさせる  
→『学びの木』「書く」「話す」
- ふり返りを書く場を設定する（自分の変容・友だちの考えの良さ）



キーワードは、整数のかけ算になるようにすることだから、・・・。



おうむさんのくちばしは、太くて  
先が曲がっているから、・・・。

まとめ活動を充実させ、学習理解の定着・次時へ意欲を持たせる